WIDEX **DREAM**™

取扱説明書
耳かけ型補聴器 DREAM

D-FA

WIDEX®
HIGH DEFINITION HEARING

お客様の補聴器
(このページは販売店で記入します)

□ DREAM440
□ DREAM330
□ DREAM220
□ DREAM110

プログラム:

□ マスター	□ AE
□ ミュージック	□ AE
□ テレビ	□ AE
□ 快適	□ AE
□ 後ろの音(対応モデルのみ)	□ AE
□ 電話	□ AE
□ テレコイル(T)	□ AE
□ マイクとテレコイル(M+T)	□ AE
□ ゼン	□ AE
□ マスター + ゼン(複合)	□ AE
□ マスター + 後ろの音(複合)	□ AE
□ マスター + テレコイル(T)(複合)	□ AE
□ マスター + マイクとテレコイル(M+T)(複合)	□ AE
□ マスター + 電話(複合)	□ AE
□ ゼン+	□ AE
□ 電話+(対応モデルのみ)	□ AE

日付　　販売店名

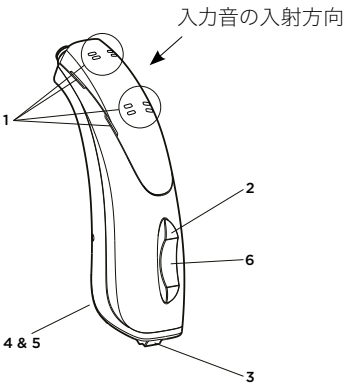
目次

各部の名称と機能 4
お知らせ音 7
補聴器の電池 8
電池の挿入方法 8
電池電圧低下のお知らせ 11
補聴器電源のオン/オフ(入/切) 12
右耳用補聴器と左耳用補聴器の識別 13
補聴器の装着方法 14
補聴器の取り外し方法 15
音量調節 16
通信相手未検出時の警告 18
プログラム 18
リスニングプログラムの切り替え 22
ゼン+ 23
電話+(対応モデルのみ) 23
電話の使用 24
お手入れ 25
補聴器のお手入れ 26
アクセサリ 27
故障と思われるときの対処方法 28
補聴器のお取り扱い 30
特に注意すること 31
補聴器のご使用にあたって 35
補聴器に慣れるために 36
REGULATORY INFORMATION 38
追加プログラム一覧 42
電気音響的性能 43
取扱説明書で使用される記号 45

各部の名称と機能

下の図は、イヤセットを除いた補聴器本体を表しています。イヤセットは、お客様に合ったものをフィッティング担当者と共にお選びいただきます。
イヤセットに関しましては、別冊の取扱説明書「耳かけ型/RIC/RITE補聴器用イヤセット」をご参照ください。

1. マイクの入音口
2. ボリュームコントロール
3. プログラムボタン
4. 電源オン/オフ(入/切)スイッチ
5. グリップ(凸部)付き電池ホルダー
6. LED



製品のシリアル番号(通常6桁または7桁の数字)を確認するのが難しい場合は、販売店にご相談ください。

付記

この取扱説明書に加え、お客様の補聴器と使用可能なイヤセットについての取扱説明書「耳かけ型/RIC/RITE補聴器用イヤセット」が同梱されています。

重要

この取扱説明書、および別冊の取扱説明書「耳かけ型/RIC/RITE補聴器用イヤセット」には、重要事項が記載されています。補聴器をお使いになる前に、よくお読みください。

付記

この取扱説明書に記載されている補聴器、イヤセット、付属品の図は、お客様のものと異なる場合があります。また必要が生じた場合、弊社はこの取扱説明書の記載内容を変更する場合があります。

使用目的

この補聴器は、増幅された音により日常生活での聞こえを補う機器です。また、この補聴器には静かな環境でリラックスするための背景音（音楽やノイズ）を再生するゼンプログラムが搭載されています。

ご使用にあたって

この補聴器は、軽度から高度の聴力低下を対象とした機器です。

補聴器の調整にあたっては、専門的教育を受けた補聴器技能者・言語聴覚士・医師により処方されることを推奨します。

機器の概要

この補聴器は、耳せん（イヤモールド、イヤチップまたはイーチップ）とチューブで構成されるイヤセットと共に使用します。この補聴器は、独自のワイヤレス通信技術WidexLinkを備えており、左右の補聴器間での交信や、DEX機器（別売り）との通信が可能です。

この補聴器にはゼンプログラムを設定できます。ゼンプログラムは、音楽やノイズを背景音として再生するもので、お客様の聴力に応じて調整されます。詳しくは、販売店にご相談ください。

⚠ 重要

この補聴器は、132 dB SPLを超える出力が可能になります。残存聴力に影響を及ぼす場合がありますので、ご注意ください。

お知らせ音

この補聴器は、補聴器の状態や機能を音声やビープ音（プッという音）でお知らせすることができます。お知らせ音の大きさを変更したり、無効にすることもできます。詳しくは、販売店にご相談ください。

補聴器の状態または機能	初期設定	その他の設定
音量調節	ビープ音	オフ(切)
プログラムボタン使用確認	クリック音	オフ(切)
リスニングプログラム変更時	音声	ビープ音またはオフ(切)
動作開始時	音声	トーン音またはオフ(切)
電池電圧低下のお知らせ（警告）	音声	ビープ音4 回または オフ(切)
通信相手未検出時の警告	オフ(切)	音声
点検時期到来のお知らせ	オフ(切)	音声

注意：「通信相手未検出時の警告」は、DREAM440のみ対応。

補聴器の電池

本品には、ワイデックス空気電池PR41（312タイプ）をご使用ください。

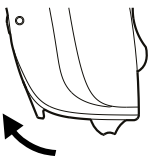
交換用電池のご購入については、販売店にご相談ください。電池を適切に動作させるため、電池のパッケージに印刷されている使用推奨期限に注意し、期限の切れた電池は使用しないでください。電池の寿命は、補聴器の設定や1日の使用時間、使用環境などによって異なります。特に冬場は、気温の低下、空気の乾燥、暖房器具などから発生する二酸化炭素などによって、電池の寿命が短くなることがあります。

電池の挿入方法

補聴器に新しい電池を挿入する前に、電池のシールを完全にはがしてください。シールをはがすと酸素が供給され、電池は数秒後に使用可能な状態になります。

注意

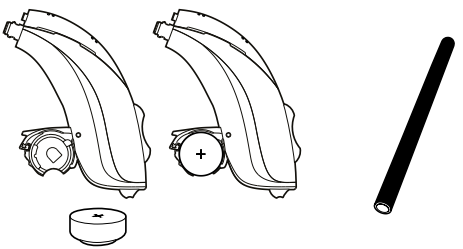
電池のシールの接着剤などが電池の表面に付着して取れない場合は、その電池を使用しないでください。



グリップ（凸部）に爪をかけ、電池ホルダーを開きます。電池ホルダーを無理に開きすぎないようにしてください。

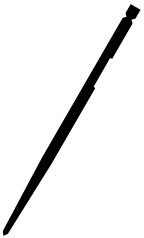
電池のプラス(+)記号が上を向くようにして、電池を入れます。付属の電池取り出し用磁石を使って電池を入れることもできます。

電池ホルダーが閉まりにくい時は、電池が正しく挿入されているか確認してください。



電池を交換する時は、机にやわらかい布などを敷いた上で行ってください。

小さなお子さまがこの補聴器を装用する場合、電池を取り出して誤って口に入れてしまうことを防ぐために、電池を取り出しにくい仕組みになっている電池ホルダーも用意されています。詳しくは販売店にご相談ください。



グリップ（凸部）がない電池ホルダー
小さなお子様がこの補聴器を装用する場合、電池を取り出して誤って口に入れてしまうことを防ぐために、グリップ（凸部）をなくした電池ホルダーも用意されています。

この場合、電池ホルダーは専用の道具を使って図のように開きます。

詳しくは、販売店にご相談ください。

電池電圧低下のお知らせ

電池が少なくなってくると、補聴器はお知らせ音で知らせます（お知らせ音を無効に設定している場合を除く。7ページ参照）。このお知らせ音が鳴ってから補聴器がどのくらい使用できるかは個々に異なりますので、常に予備の電池を持ち歩くことをお勧めします。

重要

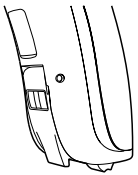
消耗した電池を補聴器に入れたまま放置しないようご注意ください。消耗した電池から電解液が流出すると、補聴器の故障の原因となります。

重要

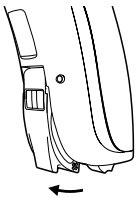
電池を完全に使い切ると、補聴器から突然音が聞こえなくなる場合があります。通行中や、警報など周囲の音を聞く必要がある場合はご注意ください。

補聴器電源のオン/オフ（入/切）

電池ホルダーは補聴器電源のオン/オフ（入/切）スイッチとしても機能します。



電池を挿入して電池ホルダーを閉じると、補聴器の電源が入ります。補聴器からは、電源が入ったことを知らせるお知らせ音が聞こえます（お知らせ音を無効に設定している場合を除く）。

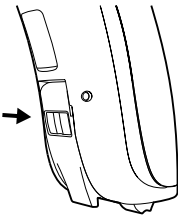


補聴器の電源を切るには、電池ホルダーをカチッと感じる最初の所まで少し開きます。

付記：補聴器を手で覆った時にハウリング（ピーッという音）が起きたら、補聴器の電源が入っています。

補聴器を使用しない時は、必ず電源を切ってください。数日間使用しない場合は、電池を取り出して保管してください。

右耳用補聴器と左耳用補聴器の識別



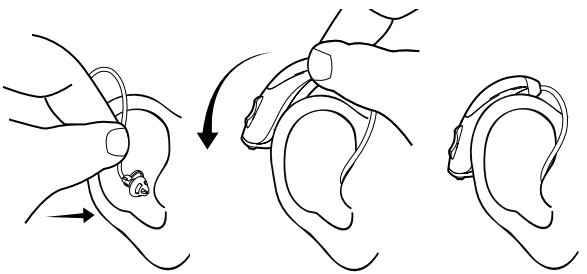
補聴器を両耳でお使いの場合、左右を識別しやすいように補聴器にマークを付けることができます（赤＝右耳用、青＝左耳用）。

図の矢印は、マークの位置を表しています。詳しくは販売店にご相談ください。

補聴器の装着方法

チューブの下側を持ち、耳せんを外耳道に挿入します。
もう片方の手で耳を後方、上方向に引っ張ると、装着しやすくなります。

補聴器を耳の後ろに掛け、フックが耳と頭の間にぴったりと収まるようにします。



この図の耳せんはイーチップを表しています。
イヤモールド、イヤチップまたはイーチップのタイプ、イーチップロックやその取り付け方の手順などは、別冊の取扱説明書「耳かけ型/RIC/RITE補聴器用イヤセット」をご参照ください。

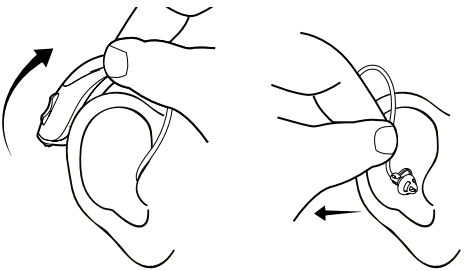
イヤセットが耳に合わなかったり、耳の皮膚が赤くなったり違和感などの異常を感じる場合は、販売店にご相談ください。

補聴器の取り外し方法

補聴器を耳の後ろから外します。

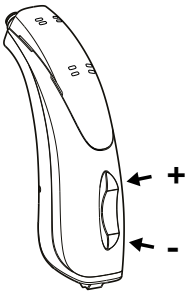
チューブの下側を持ち、耳せんを外耳道から注意深く引き出します。耳せんがカスタムイヤチップの場合は、親指と人差し指でテグスを持ち、カスタムイヤチップを外耳道から注意深く引き出します。

取り外しにくいときは、耳せんを左右に揺らしながら引き出してください。あるいは、もう片方の手で耳を後方、上方向に引っ張ると取り外しやすくなります。



音量調節

補聴器の音量は、周囲の音の環境に応じて自動的に調節されます。



お客様ご自身で音量を調節する場合は、ボリュームコントロールを操作します。

ボリュームコントロールの上側を押すと、音量が段階的に上がります。

ボリュームコントロールの下側を押すと、音量が段階的に下がります。

初期設定では、左右両方の補聴器の音量が同時に調節されます。

音量調節の幅の設定変更など、詳しくは販売店にご相談ください。

ボリュームコントロールを操作する度に、お知らせ音が聞こえます（お知らせ音を無効に設定している場合を除く）。音量を上げた場合は、上げる度に「ピッ」という高い音が聞こえます。音量を下げた場合は、下げる度に「プッ」という低い音が聞こえます。音量が最大または最小に達すると、「ピー」または「プー」という長い音が聞こえます。

重要

補聴器の音が大きすぎる、小さすぎる、音が歪んで聞こえるなどの違和感がある場合は、販売店にご相談ください。

音をミュート（消音）にする場合

- ボリュームコントロールの下側を押します。「プー」という音が聞こえても押し続けると、補聴器の音を消すことができます。

ミュート（消音）にした後、音量を元に戻す場合

- ボリュームコントロールを押します。
- リスニングプログラムを変更します。

補聴器の電源を切ったり、リスニングプログラムを変更したりすると、音量は元に戻ります。

付記：この補聴器は、お客様が補聴器の音に慣れるために、増幅が徐々に大きくなるよう設定することができます。そのため、一定期間が過ぎると補聴器の音量が大きくなることがあります。

通信相手未検出時の警告

(付記:この機能の設定が有効になっている場合のみ)
片方の補聴器が耳から外れて落ちた場合や、電池電圧が低下した場合は、もう片方の補聴器からビープ音と音声で「プップッ、左右通信確認」と2回お知らせし、両方の補聴器のLEDが点滅します。外れた補聴器が装用し直されたり、電池が交換されると、LEDの点滅は止まります。

プログラム

この補聴器には、複数のプログラムを設定することができます。更に、ゼンの特別なプログラム、ゼン+を設定することもできます。DREAMシリーズには、ゼン+の代わりに電話+を設定できるモデルもあります。

マスター(標準)	標準的なプログラムです。
ミュージック	音楽を聴く時に最適です。
テレビ	テレビを見る時に最適です。
快適	騒音下でも静かな場所でも、快適性を優先します。
後ろの音*	背後から来る音をしっかり拾います。
電話	電話での通話に最適です。
テレコイル(T)	補聴器のマイク(M)ではなく、テレコイル(T)からの音が聞こえます。テレコイルは、ループ・システムが設置された場所などで使用できます。このプログラムでは、テレコイルを通して必要な音源からの音のみを聞くことができます。

マイクとテレコイル(M+T)	補聴器のマイク(M)の音とテレコイル(T)の音が聞こえます。
ゼン	ストレス軽減を目的とした機能。チャイムや鐘の音を奏でます。
複合プログラム	片方の補聴器にマスター、もう片方の補聴器にゼン、後ろの音、テレコイル(T)、マイクとテレコイル(M+T)、電話のいずれかを設定できます。
ゼン+	最大3種類のゼンスタイルを設定できます。
電話+*	電話を使用する時専用のプログラムです。 片方の補聴器で受けた電話通話音を、もう片方の補聴器に送信し ます。 受信する側の補聴器のマイクの音は入らなくなります。

*対応モデルのみ設定可能。

この補聴器には、AE(オーディビリティ エクステンダー)と呼ばれる機能が付いています。この機能は、高い音をお客様が聞き取れる低い音に移行するもので、全てのプログラムに設定することができます。

後にお客様の生活環境の変化に応じて、リスニングプログラムの組み合わせを変更することもできます。プログラムの追加や変更に関しましては、販売店にご相談ください。

注意
電話+は、周囲の音を聞く必要がある場合は使用しないでください。

ゼンプログラム

ゼンプログラムは、音楽やノイズを背景音として再生するものです。周囲の音を聞く必要がない場合は、ゼントーン（チャイムや鐘の音）だけを聞くことができます。または、補聴器のマイクの音とゼントーンを同時に聞くようにすることもできます。詳しくは、販売店にご相談ください。

注意

ゼンプログラムの設定によっては、会話や周囲の音を聞く妨げになる場合があります。周囲の音を聞く必要がある時は、このプログラムを使用せず、ゼン以外のプログラムに切り替えてください。

注意

補聴器の音量や音質に違和感がある場合は、販売店にご相談ください。

利点
ゼンプログラムは、リラックスするための背景音として使用できます。

使用目的
ゼンプログラムは、背景音に音楽やノイズを再生し、静かな環境でリラックスするために使用します。
また、本品は「耳鳴マスカ」としての機能を有しますが、「耳鳴マスカ」は医師の処方を前提としています。本品を「耳鳴マスカ」としてご使用になる場合は、必ず医師の指示に従ってください。

使用方法
ゼンプログラムは特別なリスニングプログラムです。
ゼンプログラムの使用方法、使用時期、使用時間については、販売店または医師にご相談ください。

リスニングプログラムの切り替え
補聴器のプログラムボタンでプログラムを切り替えることができます。初期設定では、他のプログラムに切り替える度に音声でプログラム名をお知らせします。

「ビープ音によるお知らせ」が設定されている場合は、どのプログラムを選択したかを、音でお知らせします。

プログラム 1:短い音(1回)ピッ
プログラム 2:短い音(2回)ピッピッ
プログラム 3:短い音(3回)ピッピッピッ
プログラム 4:長い音(1回)短い音(1回)ピーッピッ
プログラム 5:長い音(1回)短い音(2回)ピーッピッピッ
ゼン+または電話+:トーン

初期設定では、左右両方の補聴器のリスニングプログラムが同時に切り替わります。

ゼン+
補聴器またはRC-DEXのプログラムボタンを1秒以上長押しすると、ゼン+プログラムに切り替わります。その後、プログラムボタンを短く押すと、設定されているゼンスタイルに順番に切り替わります。

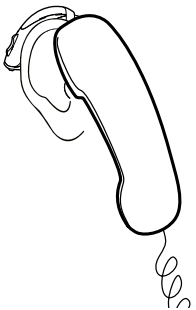
ゼン+プログラムを終了する場合は、補聴器またはRC-DEXのプログラムボタンを1秒以上長押しします。

電話+（対応モデルのみ）
ゼン+の代わりに電話+が設定されている場合は、補聴器のプログラムボタンを1秒以上長押しすると電話+プログラムに切り替わります。RC-DEXでは電話+プログラムに切り替えることはできないのでご注意ください。

電話+プログラムを終了する場合は、同じ補聴器のプログラムボタンを1秒以上長押ししてください。

誤ってボタンを押してしまい、プログラムが切り替わらないように、補聴器のプログラムボタンを無効にすることもできます。詳しくは、販売店にご相談ください。

電話の使用



電話を使用する場合は、受話器を直接耳に向けるのではなく、耳の上に向けてください。音が聞こえにくい場合は、受話器を少し動かして大きく聞こえるところを探してください。

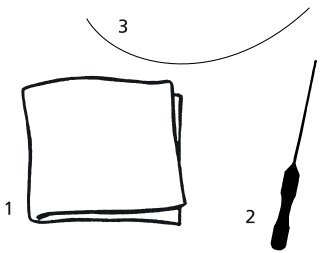
お使いの電話機が「補聴器対応」のもので、受話音を磁界として出力できるタイプの場合、補聴器にテレコイル(T)のプログラムを設定することで、電話の音を直接聞くことができます。詳しくは、販売店にご相談ください。

お手入れ

同梱されている以下の用具*を使って、補聴器のお手入れをしてください。

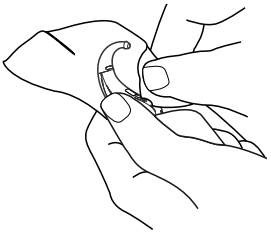
別冊の取扱説明書「耳かけ型/RIC/RITE補聴器用イヤセット」もご参照ください。

1. やわらかい布
2. お手入れ用具（ベント用）
3. イヤセットのお手入れ用具



ご不明な点は、販売店にお問い合わせください。

*同梱されているお手入れ用具は、ご使用のイヤセットの種類により異なります。



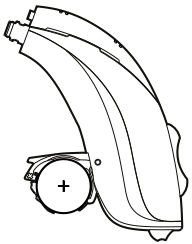
補聴器のお手入れ

ご使用後は、やわらかい布で補聴器を拭いてください。

マイクの入音口が詰まっている場合は、販売店にご連絡ください。

重要

補聴器は、決して水や洗剤などで洗わないでください。



補聴器を使用しない時は、補聴器の通気や乾燥のため、電池ホルダーを開けておいてください。

アクセサリ

本品は、様々な補聴援助機器との併用が可能です。

RC-DEX	小型リモートコントロール
TV-DEX	テレビまたはオーディオ用
M-DEX	Bluetooth搭載携帯電話用、多機能リモート コントロール
FM+DEX	FM受信機、磁気ループ、外部音響機器からの 信号を補聴器へ伝達

故障と思われるときの対処方法

問題点	考えられる要因	解決策
補聴器から音が聞こえない。	補聴器の電源が入っていない。	電池ホルダーがしっかり閉じているか、確認してください。
	電池の消耗または電池不良。	新しい電池を入れて試してください。
補聴器の音が小さく感じる。	外耳道に耳垢が詰まっている。	耳鼻科医にご相談ください。
	聴力が変化した。	販売店にご相談ください。
ピーッというハウリング音が常に聞こえる。	外耳道に耳垢が詰まっている。	耳鼻科医にご相談ください。
補聴器が両耳同時に動作しない。	補聴器間の通信が途絶えた。	補聴器の電源を入れ直してください。
DEXで音量調節やリスニングプログラムの切り替えをしても補聴器が反応しない。	a. DEXが通信圏外で　使用されている。 b. 近くに電磁波を出す機器がある。 c. 補聴器とDEXがマッチングされていな　い。	a. DEXを補聴器に近づけて　ください。 b. 電波干渉する機器から離れてください。 c. 補聴器とDEXが正しくマ　ッチングされているか、販　売店に確認してください。

問題点	考えられる要因	解決策
使用時に音が途切れる、または片方の補聴器からの音が聞こえない。	a. 片方の補聴器の電池が消耗した。 b. 近くに電磁波を出す機器がある。	a. 片方、または両方の補聴器の電池を交換してください。 b. 電波干渉する機器から離れてください。

注意：この対処方法は補聴器本体のみに該当します。イヤセットについては、別冊の「耳かけ型/RIC/RITE補聴器用イヤセット」の取扱説明書をご参照ください。

問題が改善されない場合は、販売店にご相談ください。

補聴器のお取り扱い

補聴器は、精密機器として慎重に扱ってください。また、適切なお手入れをすることによって、より長くお使いいただくことができます。補聴器のお取り扱いについては、次の点にご注意ください。

注意

- ご使用後は、必ず電源を切ってください。数日間使用しない場合は、電池を取り出して保管してください。
- 補聴器を使用しない時は、電池を取り出してから乾燥ケースに入れ、お子さまやペットの手の届かない乾燥した場所で保管してください。
- 高温、高湿度の場所は避けてください。また、スポーツなどでたくさん汗をかいた後は、必ず補聴器を十分乾燥させてください。
- 補聴器を落とさないよう、ご注意ください。補聴器のお手入れや電池交換は、机にやわらかい布などを敷いた上で行ってください。
- シャワーや入浴、洗顔、化粧の前には、必ず補聴器を外してください。ヘアドライヤーや香水、スプレー類、クリーム類などを使用する時も同様です。

特に注意すること

重要

補聴器やその部品、付属品や電池は、口に入れたり不適切な使用をすると非常に危険です。怪我や、思わぬ事態になりかねません。お取り扱いには十分ご注意ください。

- 補聴器やその部品、付属品や電池は、口に入れる危険があるためお子さまやその他誤って口に入れてしまいそうな方の手の届かない場所に保管してください。電池はお子さまの手の届かない場所に保管し、使用済みの電池の廃棄にも十分ご注意ください。
  お子さまの目の前で電池を交換しないようにし、電池の保管場所も見られないようにしてください。
- 電池は非常に小さいため、錠剤などと間違えやすく危険です。電池や補聴器は、飲み込んでしまう危険性がありますので、決して口に入れないでください。万一誤って飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。
- ご使用後は補聴器のお手入れをし、破損がないことを確認してください。万一、補聴器やイヤセットが耳の中で破損した場合は、直ちに販売店にご相談ください。ご自分で破損した部品を取り除こうとしないでください。

重要

- 電池は必ず空気電池を使用してください。万一、指定以外の電池や再充電した電池など、適切でないものを使用すると、爆発する危険性があります。また、電池の廃棄は地区の法令に従ってください。
- 他人に補聴器を貸したり、譲渡することは避けてください。お客様の聞こえに調整した補聴器を他の人が使用しても耳に合わず、耳を痛める恐れがあります。また、衛生面でお互いに感染症発症などのリスクが生じます。
- リスニングプログラムは、周囲の音環境に合わせて選択するようにしてください。特に、車の音や警報など周囲の音を聞く必要がある場合はご注意ください。
- 補聴器は抗アレルギー素材を使用していますが、万一使用中に耳や外耳道付近に「かぶれ」が生じた場合は、販売店または耳鼻科医にご相談ください。

重要

- **超音波療法（理学療法）、レントゲン撮影、MRI、CTスキャンなどの放射線治療や撮影を受ける場合は、必ず事前に補聴器を外してください。使用する放射線・電磁波の種類によっては、補聴器を損傷させることがあります。**補聴器は、絶対に電子レンジの中に入れないでください。電磁波を発生する電磁（IH）調理器などの機器や、室内外の防犯警報装置、携帯電話、超音波洗浄器などによって、補聴器に雑音や歪みが生じる場合があります。
- 補聴器の故障を防ぐため、乾燥ケースを常用してください。
- この補聴器は、鉱山、爆発性ガスのある場所で使用しないでください。
- **超音波療法（理学療法）、レントゲン撮影、MRI、CTスキャンなどの放射線治療や撮影を受ける場合は、必ず事前に補聴器を外してください。使用する放射線・電磁波の種類によっては補聴器を損傷させることがあります。**補聴器は、絶対に電子レンジの中に入れないでください。また電磁波を発生する電磁（IH）調理器などの機器や、室内外の防犯警報装置、携帯電話、超音波洗浄器などによって、補聴器に雑音や歪みが生じる場合があります。

重要

能動型埋め込み機器への影響について

- 細心の注意を払うため、除細動器およびペースメーカーの製造業者が推奨する、携帯電話の使用に関するガイドラインに従うことをお勧めします:
- 能動型埋め込み機器をご使用の場合は、ワイヤレス補聴器およびリモコンやDEX機器などのアクセサリをその機器から少なくとも15cm離してください。
- 万一、何らかの干渉が認められた場合は、補聴器の使用を中止して、直ちにペースメーカー等の製造業者にご相談ください。電源供給ライン、静電放電、空港の金属探知機でも干渉が起こる可能性がありますのでご注意ください。
- 脳内インプラントをご使用の場合は、インプラントの製造業者に安全性についてご確認ください。

埋め込み型機器をご使用の場合は、その機器から磁石*を少なくとも15cm離してください(*磁石とは、補聴器ケースや付属品に使用されている磁石などを示す)。

注意

- 本品は国際規格に準じて干渉テストを行っております。しかしながら、警報装置や携帯電話などからの予期せぬ電磁放射の影響を受ける可能性があります。
- この補聴器は、国際的な電子適合基準の規格に合うよう設計されていますが、医療機器など他の機器と干渉する場合もあります。
- 補聴器やその部品は、絶対にご自分で分解、または修理しようとしないでください(許可された人によってのみ行われます)。

補聴器のご使用にあたって

付記

- 補聴器を使用することによって、正常な聞こえに戻るわけではありませんが、現在の聴力を最大限に活かす手助けとなります。新しい補聴器や新しい音に慣れるには時間がかかることもご理解ください。
- 多くの場合、補聴器を常用しないとその補聴効果を充分に得られません。
- 補聴器装用は聴能を高める方法の一部にすぎません。聴覚トレーニングや読唇法訓練などを補う必要がある場合もあります。
- 補聴器を使用すると、耳垢がたまりやすくなることがあります。耳が耳垢でふさがっていると思われる時は、耳鼻科医にご相談ください。耳垢が詰まると聞こえが低下するだけでなく、補聴器の効果にも大きく影響します。定期的に耳鼻科医を受診されることをお勧めします。

補聴器に慣れるために

この度は、ワイデックス補聴器をお選びいただきましてありがとうございます。この補聴器で、お客様はコミュニケーション能力の回復への第一歩を踏み出されました。

今お客様が聞いている多くの音は、補聴器が無い状態では聞こえていませんでしたので、以下の簡単な訓練を数分間行うことをお勧めします。最初は静かな環境で行い、その後に騒がしい環境で試してください。

訓練1：まず補聴器の電源を切り、目を閉じた状態で家族や友人の会話を聞きます。それから補聴器の電源を入れて、家族や友人の会話を聞き続けます。聞こえの違いに気づくでしょうか？この訓練の目的は、一字一句を聞きとることではなく、聞き慣れた音声が増幅された違いに気づくことです。

訓練2：補聴器の電源を入れて、目を閉じた状態で家族や友人の会話を聞きます。それから目を開いて会話を聞き続けます。聞こえを補うためには視覚からの情報が手助けになることを体験することが目的です。

訓練3：新聞を2部用意します。家族や友人に新聞を声に出して読んでもらい、あなたは同じ新聞を黙読します。あるいは、新聞を音読して自分自身の声を聞きます。字幕付きのテレビを見ることも有効でしょう。

- 私たちは耳ではなく、脳で音を聞いています。あなたが聞いている新しい音に脳が完全に順応するには、しばらく時間がかかるでしょう。例えば、自分の足音、新聞のカサカサという音、冷蔵庫のブーンという音が聞こえることは珍しいことではなく、健聴者にとっては当たり前の事なので意識はしません。これらの音に順応するには、数週間の忍耐が必要です。脳は、重要ではない音は無視することを学習するのです。もし、補聴器の音が大きすぎる、または不快と感じる場合は、販売店にご相談ください。
- 会話の音声は非常に多くの音を含んでいます。言葉の聞き間違いを気にすることは、さらなる聞き間違いに繋がる可能性があります。会話の要点に集中してください。グループ内での会話の場合、全体の話題についてそっと教えてくれるよう、仲の良い人にお願いすることも助けになるでしょう。
- 食事に出かける場合は、キッチンやバーから離れた座席にしてもらうよう、事前に連絡をしておくとよいでしょう。騒がしい場所では、健聴者でさえ会話の聞き取りに苦労することを覚えておいてください。

さらに詳しい訓練方法や、トレーニングの材料、参考になりそうなコミュニケーションの手引きなどについては、www.japan.widex.com.をご参照ください。

REGULATORY INFORMATION

FCC ID: TTY-DFA
IC: 5676B-DFA

Federal Communications Commission Statement
This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

(1) This device may not cause harmful interference, and
(2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

NOTE:
This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

— Reorient or relocate the receiving antenna.
— Increase the separation between the equipment and receiver.
— Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
— Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

NOTE:
This equipment complies with FCC radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment. This transmitter must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.

Changes or modifications to the equipment not expressly approved by Widex could void the user's authority to operate the equipment.

Industry Canada Statement / Déclaration d'industrie Canada
Under Industry Canada regulations, this radio transmitter may only operate using an antenna of a type and maximum (or lesser) gain approved for the transmitter by Industry Canada.

To reduce potential radio interference to other users, the antenna type and its gain should be so chosen that the equivalent isotropically radiated power (e.i.r.p.) is not more than that necessary for successful communication.

This device complies with Industry Canada licence-exempt RSS standard(s). Operation is subject to the following two conditions:

(1) this device may not cause interference, and
(2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of the device.

Conformément à la réglementation d'Industrie Canada, le présent émetteur radio peut fonctionner avec une antenne d'un type et d'un gain maximal (ou inférieur) approuvé pour l'émetteur par Industrie Canada.

Dans le but de réduire les risques de brouillage radioélectrique à l'intention des autres utilisateurs, il faut choisir le type d'antenne et son gain de sorte que la puissance isotrope rayonnée équivalente (p.i.r.e.) ne dépasse pas l'intensité nécessaire à l'établissement d'une communication satisfaisante.

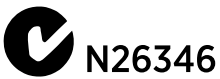
Le présent appareil est conforme aux CNR d'Industrie Canada applicables aux appareils radio exempts de licence. L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes :

(1) l'appareil ne doit pas produire de brouillage, et
(2) l'utilisateur de l'appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement.

指令 1999/5/EC

Widex　A/S社は、補聴器D-FAが指令1995/5/ECの基本的要求事項および関連事項に適合することを宣言します。

1999/5/ECに基づく適合宣言のコピーは、
http://www.widex.com/docにてご覧いただけます。



電気・電化製品には、廃棄時の処理が適切でないと、人体や環境に影響を及ぼす危険性のある材料、部品、物質が含まれています。

補聴器やその付属品、電池を通常の廃棄物として処分しないでください。

補聴器やその付属品、電池については、地区の定める電気・電化製品の処分方法に従って処分するか、購入元へ処分を依頼してください。適切な処理が、人体の健康および環境を保護するために役立ちます。

追加プログラム一覧

お客様のプログラムの設定：

プログラム1：
プログラム2：
プログラム3：
プログラム4：
プログラム5：
特別なプログラム：

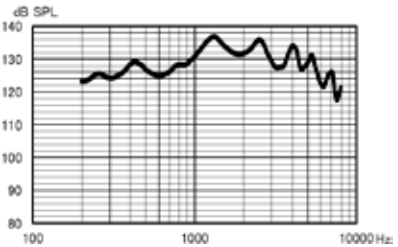
電気音響的性能

電気音響的性能は、JIS C 5512-2000 による。

		D-FA
規準周波数		2500Hz
電池の種類		PR41　1.4V
90dB最大出力音圧レベル	500Hz	126 dB SPL
(※)	2500Hz	135 dB SPL
	ピーク	139 dB SPL 以下
最大音響利得 (50dB SPL入力)	2500Hz	75 dB
等価入力雑音レベル (※)		22 dB SPL 以下
電池の電流 (※)		1.30mA 以下
全高調波ひずみ (※)	500Hz	6.0% 以下
	800Hz	6.0% 以下
	1600Hz	2.0% 以下
誘導コイル入力の最大感度		103 dB
誘導コイルが最大感度となる方向		垂直方向

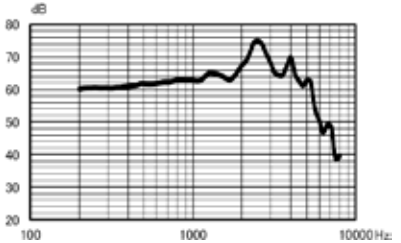
ノーマルフック使用時　(※) テストモード1で測定

90dB最大出力
音圧レベル
周波数レスポンス(※)

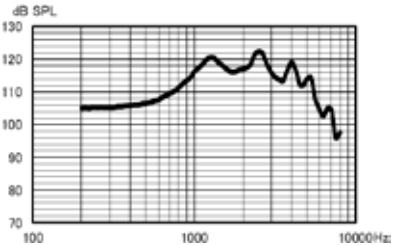


最大音響利得の
周波数レスポンス

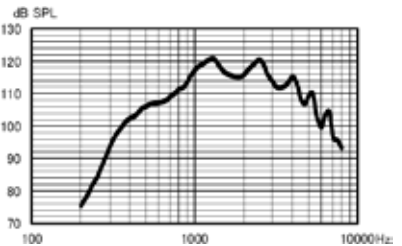
入力:50dBSPL



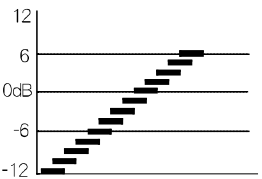
規準
周波数レスポンス
(※)



誘導コイル入力の
周波数レスポンス
(※)



利得調整器の変化特性



取扱説明書で使用される記号

ワイデックス株式会社が製造販売する管理医療機器の表示
(ラベル/取扱説明書/等)に共通して使用される記号

記号	名称/意味
	製造元 製品の製造者名、製造所の所在地 製造年月も記載される場合があります。
	製造年月 製品が製造された年月
	使用期限年月 製品の使用可能期限
	ロット番号 製品のロット番号 (製造時の生産単位を特定する番号)
	カタログ番号 製品のカタログ (品目) 番号
	シリアル番号 製品のシリアル (製造)番号*
	直射日光、熱遮蔽 製品を、直射日光および熱から遮蔽してください。

記号	名称/意味
	水ぬれ禁止 製品を湿気から護り、雨に濡らさないでください。
	保管温度の下限 製品を安全に保管できる最低温度
	保管温度の上限 製品を安全に保管できる最高温度
	保管温度限界 製品を安全に保管できる最高および最低温度
	取扱説明書を参照 取扱説明書には安全に関する重要なお知らせ　(重要/注意) が含まれていますので、製品のご使用前に必ずお読みください。
	重要/注意 重要/危険注意の記号を伴う事項は、製品のご使用前に必ずお読みください。
	WEEEマーク **一般廃棄物ではありません。** 製品の廃棄は、自治体により定められた分別回収・リサイクルに従ってください。

記号	名称/意味
	CEマーク 製品は、CEマークに関する欧州指令によって定められた要件に適合しています。
	注意 製品は、R&TTE指令（無線機器、電気通信端末機器に関する欧州指令）により、一部CE加盟国での使用に制限を伴うクラス2機器として分類されます。
	C-Tickマーク 製品は、オーストラリアとニュージーランド市場に供給される製品に対する、 EMC・無線スペクトル規制要件に準拠しています。
	電磁波による干渉 製品の近くでは電磁波による干渉が起きる可能性があります。

*製品に記載されている6桁または7桁の数字はシリアル番号です。製品によっては、シリアル番号の前に SN が記載されない場合もあります。

ワイデックス株式会社
製造販売元　ワイデックス株式会社
〒131ー0034 東京都墨田区堤通1-19-9
リバーサイド隅田セントラルタワー
TEL:0120-332-604（ミミニ ロウホウ）　FAX:0120-332-394（ミミニ サクヨ）
http://www.widexjp.co.jp
許可番号　13B2X00020　管理医療機器

WIDEX A/S Nymoellevej 6, DK-3540 Lynge, Denmark
www.widex.com

CE 0459

取扱説明書番号:
9 514 0247 016 #03
発行:
2015-02

WIDEX, DREAM and DEX are trademarks of Widex A/S

MIX
From responsible sources
FSC® C068122
FSC www.fsc.org